

宮城 社会

<もう一度会いたい> 「物見遊山」でもいい

◎ (14) 心に迫り来る校舎

石巻市大川小の校庭はいつもお香のにおいがする。
慰霊碑の香炉から煙がたゆたう。津波で犠牲になった児童を悼み、敷地の一角に建てられた。
今野浩行さん(53)と妻ひとみさん(45)が顔を見せた。11日の月命日に足を運ぶ。6年生だった長男=当時(12)=が落命した。

<屋上はなし>

校舎は柱がへし折られ、芯の鉄筋があらわになっている。

校舎と体育館を結ぶ渡り廊下は横倒した。

あの時のまま。

長男の教室は2階にあった。1学年1学級の小さな学びや。

廊下に荷物掛けのフックが並ぶ。

<今野大輔>

その中の一つにネームシールが貼ってあった。

校舎は30年前に出来た。

円形を基調とするモダンな意匠。設計コンペで決めた。

教室は勾配のある天井に明かり取りの窓が偏わり、自然光を取り入れる。

ホールの壁にはステンドグラス。「アセンブリー(集会)ホール」としやれた名が付いた。

完成した時は「ハイカラな学校」と地域中が沸いた。親も子も籍を置くのを待ち望んだ。

設計はデザインを追い求めた。

防災には見向きもしなかった。

学校は北上川沿いにある。校庭は海拔1メートル。土台のかさ上げはなく、川の堤防を乗り越えた津波にやすやすとのみ込まれた。

教室棟は屋上がない。もしあって逃げていたら74人が死ぬことはなかった。

<現実伝えて>

観光バスが横付けされた。団体さんが降りてくる。

校庭に足を踏み入れ、校舎を見て感想を漏らし、慰霊碑に手を合わせる。

「大川小の悲劇」は震災の象徴として全国的に知られた。各地からひっきりなしに訪れる。被災地ツアーの定番ルートに組み込まれている。

物見遊山の人もいる。慰霊碑の前で「ハイチーズ」。遺族の心中を波立たせる。

浩行さんはそれでもいいと思っている。

校舎の残骸を見れば津波のすさまじさが一目で分かる。

目を校庭の裏山に転じれば誰だって「何で山に逃げなかったの?」と思う。

百聞は一見にしかず。

目にしたことを帰ったら周りの人に話してほしい。

そうして現状を伝えてくれれば訪問の動機が不純だったとしても目をつぶる。

大川小は校舎を震災遺構として残すかどうかで賛否が割れている。

浩行さんは震災後、広島原爆ドームを見る機会があった。

骨組みだけになったドーム屋根が圧倒的な迫力で目に迫る。平和を希求せよと強烈なメッセージを投げ掛ける。

大川小もそうだ。

見る者の心を揺さぶる。

この惨劇を二度と繰り返すなど訴え掛ける。

性急に結論を出す必要はない。そのうち落ち着くところに落ち着く。

原爆ドームも答えを導くのに20年かかっている。



アセンブリーホールには鎮魂のイルミネーションが飾られている。12月はクリスマスツリーが点灯した

拡大写真

慌てることはない。

2015年12月18日 金曜日